



# 桐生ロータリークラブ週報

国際ロータリー第2840地区 2014-2015年度 国際ロータリーのテーマ

## 2015年



クラブ会報・情報委員会

### LIGHT UP ROTARY R.I 会長 ゲイリー C . K . ホアン

善意というものがないなら  
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。  
職業は金儲けのためでしかなく、  
社会奉仕というも施しにすぎず、  
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原 勝 樹

会長 坪井 良廣 幹事 須永 博之

後藤圭一・桑原志郎・塚越平人・吉野雅比古・立澤俊明

### 6月15日号

### 第2946回例会 (6月8日(月)第2例会)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. 点 鐘       | 8. 委員会報告      |
| 2. ローターソング斉唱 | 9. 卓 話        |
| 3. 来訪者紹介     | 「大河ドラマ花燃ゆに寄せて |
| 4. ガバナー補佐挨拶  | 楢取素彦と桐生」      |
| 5. 出席100%表彰  | 飯山 順一郎 様      |
| 6. 会長の時間     |               |
| 7. 幹事報告      | 10. 点 鐘       |

### ようこそビジター

卓話者 飯山 順一郎 様

### ガバナー補佐挨拶

群馬第2分区 A  
ガバナー補佐  
竹内 靖博 君



皆さん、こんにちは、早いもので今期も残り僅かとなりました。我が国のロータリークラブの中でも最も早い8月9日～10日に地区大会が開催され猛暑の中を皆様にご協力頂きまして、すべての地区大会行事が滞りなく終了出来ました事は、本当に良かったと思っております。今年度の地区大会の要点を整理してみますと J.K ホアン RI 会長のテーマは Light Up Rotary「ロータリーに輝きを」であります。ロータリアン一人一人が輝き、クラブを強化して「クラブに輝きを」もたらせば、ロータリーの奉仕で世界に輝きをもたらす事が出来るというのです。その目標は1. 会員増強 2. ポリオ撲滅です。2840地区の目標は異体同心 友情と奉仕の心、築き上げよう「46のロータリー物語」です。

3ヵ年地区戦略計画は1. 会員増強 2. 未来の夢計画 3. 財団、ポリオ、米山等の寄付目標達成 4. ローター研修に参加 5. 公共イメージ向上 6. 青少年奉仕 7. 奉仕の理念の実践

地区重点目標は1. 東日本大震災復興支援、2. IM の実施、3. 女性会員増強ネットワーク委員会設置です。会員の減少が続く昨今、組織の原動力はなんと言っても数です。ある程度の人数が居ないと活動にも限界があります。その点、第2840地区においては全地区にお

いて増強が続いております。4月現在年初より117名の増強がなされており、うち女性会員は23名の増強です。我が第2分区 A は21名増で、うち女性会員は10名のプラスで現在227名です。すべての目標において我が第2分区 A は正に100%達成していると申し上げても過言では無いと思います。これは偏に桐生地区の5RC が夫々のクラブで完璧に事業を実施し IM という分区最大の事業と言える合同事業においても一致団結、協力し完璧に遂行出来ました結果と改めてここに感謝申し上げる次第です。これからも各クラブの持ち味を十分に活かし、特色ある奉仕プロジェクトを立ち上げながら、合同事業においては各クラブが協力し合い、一般の皆様を巻き込んだ公共イメージ向上の楽しい有意義な活動が行われますことを心から祈念致します。本当にありがとうございました。

出席 100%表彰 木村洋一君 5回

### 会長の時間

だんだん堀年度が近づいて来ました。後2回の例会を残すのみです。次回6月15日は、一年間を振り返ってをテーマに、私と幹事で卓話をさせていただきます。

6月22日の最終例会は、6時30分よりバルボンにて行います。お酒の持込 OK を取りましたので、獺祭、百年の孤独など 私が特別ルートで手に入れました、幻の酒を持込させていただきますので、ぜひ、出席返事が未だの方は、ご検討下さい。

本日の卓話は、「花燃ゆ」のヒロイン「文」の夫、楢取

素彦(かとり もとひこ)のお話を、元桐生ロータリーの会員だった飯山順一郎さんよりお聞きします。

(報告)

・6/5、6 岡部信一郎会員ご母堂様 通夜・告別式

(予定)

- ・6/11 クラブ協議会引継会
- ・6/13 桐生 RAC 足尾植樹  
会長、堀会長エレクト、桑原副幹事、  
朝倉青少年奉仕委員長、高橋米山奨学委員長
- ・6/14 地区 RAC 指導者研修会  
朝倉青少年奉仕委員長 参加

### 幹事報告

- ・夢未来南三陸まちづくり事業部より「一燈」が届いております。
- ・群馬県自閉症協会より、会報が届いております。
- ・桐生南、桐生赤城の各 RC より週報到着。
- ・例会終了後、次年度理事役員予定者会議を開催致しますので、ご出席お願い致します。

### 委員会報告

#### 出席委員会

本日の出席(平成 27 年 6 月 8 日)

総員 66 名:出席 42 名

平成 27 年 5 月 18 日例会修正出席率:85.48%

平成 27 年 5 月 25 日例会修正出席率:85.24%

### ニコニコボックス

竹内靖博君... 今期最後のガバナー補佐としての訪問をさせて頂きます。皆様の多大なご協力のお陰で地区として素晴らしい事業が出来、心から感謝いたします。1 年間ありがとうございました / 牛腸章君、松島宏明君... 飯山順一郎様をお迎えして / 本田雄一郎君... 飯山先輩いつもありがとうございます / 水越稔幸君... 飯山順一郎先輩。。。卓話楽しみです / 須永博之君... 母の一周忌が昨日無事に終わりました。お世話になりました皆様に感謝申し上げます / 本田雄一郎君... 父本田孝太郎の通夜、葬儀に際し、ロータリーメンバーの多くの人達にご会葬頂きありがとうございました / 本田雄一郎君、津久井真澄君... 結婚祝 / 津久井真澄君... 誕生祝。

### 卓話



「大河ドラマ花燃ゆに寄せて  
楢取素彦と桐生」  
飯山 順一郎 様

私は、初代群馬県令・楢取素彦の人物とその施策に興味を持ち、長きにわたり文献や資料の蒐集に努めて参りました。彼の百年先を見越した数々の政策や教育の大切さを説く姿勢は、その後の激動の時代を経てもなお色褪せるところか、近年に至り更にその輝きを増して

いるように感じられてなりません。高度経済成長期を過ぎてからの日本では、政治家や識者がよく「地方の時代」と延べておりますが、明治維新後の当時、我が国が強力な中央集権国家であった時代に、地方から産業の育成と教育に尽力した彼の功績は、大いに讃えられるべきことであると同時に、後世の我々が更に大切に育てていかなければならないことであると思うのです。彼は、初代群馬県令として県内各地にその足跡を残しておりますが、我が愛すべき桐生市にも所縁のものが数多く残っております。楢取素彦という人物とその功績に関する論評、書籍なども既に多くのものが刊行されてはおりますが、この度は彼と桐生市との関わりという点にスポットを当ててみました。また、NHK 大河ドラマで、楢取の妻である文(美和)が主人公として取り上げられ、吉田松陰と並び注目すべき人物でもあります。

楢取素彦の名は、元桐生市立北小学校校長・延命立雄先生が桐生市第六区の区長であった時、「長州から上州へ来て、幾多の功績を県令として残している、楢取素彦という人がいる。」とお話をされた。私は、その時よりこの人に大変な興味を持ったのであるが、彼と桐生市との関わりについて述べる前に、彼の経歴を簡単に紹介しておこうと思う。

楢取素彦は、文政十二年(一八二九)三月十五日、長門国萩魚棚沖町(現・山口県萩市)に藩医・松島瑞璠の二男として生まれたが、十二歳の時に藩校明倫館の儒官を代々務める小田村家の養子となった。弘化元年(一八四四)明倫館に入り、同四年(一八四七)十九歳で司典助役兼助講となる。二十二歳大番役として江戸藩邸に勤め、安積良斎・佐藤一斎に教えを受ける。小田村氏の養嗣となって伊之助と改め、後には文助、素太郎と言ひ、慶応三年(一八六七)九月、楢取素彦と改めた。「楢(かじ)を取る」としたのは、祖先が水軍であった事に因む。また、一説には「お前は国の楢を取る人間になれ」との長州藩主・毛利敬親の意思も含まれていたとも言われている。

明治五年(一八七二)に足柄県参事となり、明治七年(一八七四)に熊谷県権令、明治九年(一八七六年)の熊谷県改変に伴って新設された初代群馬県令となった。

吉田松陰とは深い仲であり、松陰の妹二人が楢取の妻であった。最初の妻の寿に先立たれた後には、久坂玄瑞の未亡人であった松陰の末妹の美和子(文)と再婚した。

彼は最初熊谷県令として、明治七年に群馬県の地に赴任し、同九年から十七年にかけて群馬県令を務めた。明治十年(一八七七)におきた西南戦争が終結すると、世の中が平穏になっていった。それから彼は群馬県の県政を、教育と産業の二本柱として、群馬県の発展に力強く歩みを進めた。特に教育における業績は目を見はるものがあった。その第一が師範学校の設立であり、明治十年に制定された「小学教則」「群馬県師範学校規則」「群馬県中学校規制」「工女余暇学校教訓」「群馬県医学校規則」等がその一例である。群馬県は日本の中でも有数な教育県として君臨していた。実際、明治十年から十八年までの県内の就学率は、全国平均と比べて、大変高い数値を示している。

そうした楢取県令の善政が、我市桐生市にも素晴らし

い教育史の中や文献に残っている。

私は桐生市立北小学校に行き、時の校長に出会い、楫取県令の歌に接する事ができた。  
・祝歌「この里の 学びの道は織物の 綾に錦にくらべてぞみむ」という和歌である。

この歌に私は感動を覚えた。私の憶測の域ではあるが、この歌から響く彼の桐生観は、彼の故郷である萩と比較して、織物業が盛んで人々が何と活気に満ちている事だろう。萩の地域の質素さに比べると、桐生の人の心意気は、経糸と緯糸で織り成す綾織や錦織にも似て豪華絢爛で力強い産業の地であると思った事に違いない。元々殖産と教育に命を懸けた人だけに、この歌に秘められた桐生への熱い想いを感じるのである。そしてこの祝歌は、明治十一年四月二十四日、洋風木造二階建て、白漆喰塗り、建坪百八十二坪、付属七十二坪の威風堂々とした桐生学校の落成・開校に当たり贈られた。校舎は旧桐生市最古の桐生学校として相応しいものだった。以来、昭和八年までの五十六年間にわたり、北小教育の本拠地であった。

「桐生学校の扁額」は、同年(明治十一年)七月、県令(現在の知事にあたる)楫取素彦氏により贈られ、彼は本校創設以来発展のため協力して下さった恩人であり、教育のため尽力された人物である。

注、「北小百四十年の歩み」より

彼は小学校が創建されると、群馬県中喜んでそのお祝いに駆けつけ、祝辞を述べたという。

その片鱗が本市にも残っている。それが桐生市立南小学校の創立百周年の記念誌に掲載されている祝文である。その実物に触れてみよう、学校を訪れたが、残念ながらその漢文に出会う事はなかった。「大変大きな屋根を持ち、素晴らしい教育のできる学校が、竣工した事を心からお祝いする。」という内容だと人づてに聞いた事がある。

・新宿学校(現桐生市立南小学校)の扁額

また、私が卒業した桐生市立東小学校には、太平洋戦争まで校訓があり、その中に「至誠」という言葉があった。「至誠の人」とは吉田松陰の事であるが、「至誠」に始まる言葉は『孟子』からとったもので、「誠の心に接して感動しない者は、いまだかつてこの世に存在しない」という意味である。私はこの事実こそ、吉田松陰が安政の大獄で伝馬町の獄に投じられた時、松陰に代わり松下村塾を任された素彦の姿が見えてくるのである。

群馬県令となった素彦は、吉田松陰の国に対する忸怩たる想いを群馬県の津々浦々まで浸透させようとしているのだ。想ってみれば、明治維新を成し遂げた長州の志士達の心が、我が故郷群馬にも教育の場で多大な影響を与えたと考えざるを得ない。

素彦は、一八五三年に、松陰の妹寿子を妻に迎えたが、一八六四年(寿子死別後)、その実妹の美和子と結婚したとある。彼はなんと吉田松陰に信頼された人物であるが、この事実からも計り知る事ができる。群馬県として桐生市に、その心が教育の場で語られたとすれば、何故か燃え滾る熱い想いを感じるのである。それは大変心地よい風となって体中に吹いている。また、特記すべき事は、群馬県内の初等教育の産声は、明治五年に第一番小学厩橋小学校が前橋に成立したが、明治六

年二月に、なんと現桐生市の勢多郡水沼村に第二番小学校が設立されている。地元の学区取締は星野耕作とあり、小学校のモデル校として、その後県内の多くの小学校の設立に寄与した事も加えておく。その意味で、現桐生市で一番早くに建設されたのは、黒保根町の小学校というから、私には「なぜあの山間部に」と不思議に思うと同時に、教育の歴史を再点検しなければならぬ必要性を感じた一幕である。

明治七年に黒保根の水沼製糸所を創業した豪農星野長太郎の努力の賜物で、その力は偉大なものであった事をうかがわせる。また、本市にある国の重要文化財、旧群馬県衛生所(現桐生明治館)は、明治十一年(一八七八年)八月、前橋市に衛生所兼医学学校として建設されたものであるが、昭和三年六月五日相生村が本館払い下げを申請、翌年に相生村役場として現在地に移築され、今日まで保存修理等を行いながら、木造二階建て、棧瓦葺の棟が、創設当時のままの姿で整備されている。この桐生明治館を建設したのは楫取素彦が群馬県庁を高崎から前橋に移す際、中心となって誘致活動を進めた前橋の生糸商人で、後に初代前橋市長になった下村善太郎らであった。楫取県令による前橋への県庁移転の条件は、

一、県庁舎は前橋が提供する。

二、官吏の宿舎を建設する。

三、師範学校と県衛生局を建設する。

四、県庁が移転しても諸物価の値上げをしない。

というものであった。下村ら有志はこの条件をのんだ。その一か月後の明治九年九月二十九日、楫取県令は、県庁を高崎から前橋に移転した。

こうした群馬県政の激動の渦の中に、県衛生局の建設があった。当時の高等教育としては画期的な施策であった。従って明治十一年に前橋市の現在群馬会館となっている場所に、衛生所兼医学校が建設されたのである。現在の群馬大学医学部の前身となるものである。これらの事実から、私は楫取県令と共に下村善太郎初代前橋市長を尊敬する。当時の彼の判断が、前橋市をその後の群馬県庁所在地として百四十年以上に亘って存在せしめ、更に群馬大学医学部は県内最高の高等教育機関として君臨している様を見ると、百年の計を執行する市長がどのような地方都市にもいてほしいと感じざるを得ない。若しこの時に前橋市が県庁所在地となっていなかったら、前橋市は人口五万から十万人程度の一地方都市にとどまった事であろう。一方で、高崎市は県内の他市を圧倒するほどの巨大都市となっていたであろう。両市は現在も様々な面で鎬を削るが、平成の大合併を経て、両市ともに三十万人を優に超える人口を持ち、いずれも中核市の指定を受けて、地域を索引している。

楫取素彦は江戸時代末期の文政十二年(一八二九)、長州藩医・松島瑞璠の二男として生まれ、藩校明倫館で学び、後に明倫館の指導者になった。天保十一年(一八四〇)、十二歳の時、明倫館儒官大組の小田村吉平の養子となり、小田村伊之助と称した。嘉永三年(一八五〇)大番役に就き江戸藩邸勤務となった翌年、遊学のため江戸へ出てきた吉田松陰と知り合った。同六年(一八五三)二十五歳の七月に吉田松陰の妹寿を妻と



する。松陰はその事を変えて喜んでいた。この年は松陰が脱藩をした年。脱藩は藩主を裏切る大罪であった。更に安政元年(一八五四)、松陰は金子重輔と共にアメリカの黒船に身を投げ密航を企てるが、事ならずして逮捕され投獄をされる。五年後の安政六年(一八五九)松陰は江戸の獄中で刑死する。しかし吉田松陰は幕末の動乱が激しさを増す中で、松下村塾で多くの維新の志士たちを教育し、幾度も受難に耐え、志を持って常に前進を図り、明治維新を成し遂げたのである。松陰の思想を敬愛した楢取素彦は、その先頭に立ち、  
一、「学問」とは、人間とは何かを学ぶものである。  
二、志を立てる事が、すべての源となる。  
三、誠を尽くせば動かす事ができない事はない。  
の教えを共有し、実践をしていった人なのである。また、群馬県令に就いた後もこの思想を学校教育に生かし、才気あふれる若者たちの育成に心血を注いだ。  
〔産業の振興と桐生〕

明治新政府は、日本の近代化を促進するために殖産興業を推進し、その一環として各地に官営の模範工場を設立した。その一つが、明治五年(一八七二)に群馬県に設立された富岡製糸工場である。上州は江戸時代から養蚕業が盛んであった。ここに官営の製糸場が誕生すると、民間でも製糸業が盛んに行われるようになった。当時の日本の輸出品の主力は生糸であったので、群馬県産の糸も横浜港経由で欧州市場に盛んに輸出された。この富岡製糸工場は、本年(平成二十六年)ユネスコの世界文化遺産に指定され、我が国の産業史にとっても記念すべき年となった。国策における地方分権論やふるさと創生の議論をしている現代の国会議員の言葉より、この世界遺産を創生した明治の先覚の群像の思考力やエネルギー、情熱は評価するものがある。我が桐生市でも合併した黒保根村において、旧水沼村の豪農星野長太郎により水沼製糸所が器械製糸所として設立された。明治九年(一八七六)星野はアメリカへの生糸の直輸販路を開くために、弟の新井領一郎を派遣して成功している。当時、日本では、横浜港から船に乗り、薬やお茶、陶磁器など様々な業種の人が、アメリカへ渡ったが、生糸の領一郎だけが大成を収めた。ニューヨークの経済界にその名を残し、「ザイバツ」という言葉が米語となるくらいに成長させたのである。この領一郎の渡米に際し、県令楢取素彦は渡航費の一部を補助してその成功を助けている。更には彼の所に挨拶に来た領一郎に、妻の寿子は、かつてペリーの黒船に密航してアメリカの事情を学ぼうとしたが果たせなかった兄松陰の懐刀を手渡し、「兄の想いをあなたが成し遂げてほしい」と伝えた。その刀は今でも領一郎の孫の領が大切に持っているという。まさに松陰の至誠の心を、妹である寿子が実践している想いを感じさせる事柄である。(ライシャワー・ハル著「絹と武士」より)

このように活気あふれる水沼の人々の行動力に、現在生きる我々は感動を受けずにいられない。いつの日か、水沼製糸所を復元し、豊富な水量を動力に利用する器械製糸産業を興した先人たちの功績を、歴史資料として残したいと考えるのは私だけであろうか。

桐生の明治維新は、経済面では養蚕 - 製糸 - 染色 - 製織などの絹文化に支えられ、教育面では小学校の

設立など、先人の残した足跡が現在まで受け継がれているが、これも当時の県令の力に負うところが大きい。

私は、長きに亙り、楢取素彦と桐生との関わりについて書きたいと願っていた。草鞋履きで手弁当を持って、桐生にまで来た彼の、飾らない質素な出で立ちは、市民をして共感をし、尊敬し得るに足る行動であった事だろう。桐生市立南小学校創立百周年誌、同北小学校創立百四十周年誌のいずれにも、県令を敬愛する本文があるのも頷ける事である。

楢取素彦は徳川時代から明治維新へと進む激動の時代に、新しい日本の基礎作りのための根回しをした人でもある。

長州藩の命を受け、三条実美が幽閉されていた福岡県太宰府へ向かい、坂本龍馬とも会談した。楢取は、「長州、薩摩は討幕の思想を共有しているのに、その両藩が反目してはいるはこの国の新しい姿は実現しない。」と龍馬に説得された。龍馬は、西郷隆盛に会い薩摩藩の説得を進める。一方、楢取は長州藩の桂小五郎(木戸孝允)を説得し、それまで犬猿の仲であった薩長の同盟実現への地ならしをしたのである。この会談の八か月後、慶応二年(一八六六)薩長同盟は成立した。このように楢取は、九州、長州、京都と奔走し、明治維新に貢献した。

この躍動する行動力があるが故に、群馬県内に学校が建設されると労苦を惜しまず真剣にその地を訪問したであろう事を想像するのはたやすい。その為に桐生市においても、彼の数多くの書が残されているのである。追いの事に書き留めておくが、楢取の書は、桐生市立図書館蔵の横山家文書があり、そこには楢取素彦より、「新宿学校建設に当たり多大なご寄付を賜りお礼を申し上げます。」という内容の文と共に、萩の焼物を贈呈した記録があるようである。また、東の後藤氏宅には「先日貴方に会えて楽しかった。」というような内容の書があると聞き及んでいる。後日の参考にしてほしい。

私は昭和六十二年に桐生市議会議員に当選し四期十六年に亙り務めました。その一期目に、楢取素彦の書が桐生にあり、しかも学校にかかわる資料であるという事で、議会の一般質問の中で取り上げました。時の矢村教育長が「貴重な文献であり、桐生市は後世に渡って大切に保存する。」と答弁をいただき、現在も桐生市立北小学校や同南小学校において大切にされている様子を拝見し、桐生市の教育に関わる方々の心に触れて感動しています。

また、市議会議員の視察にも、笠井秋夫さんを団長に十人くらいで、山口市や萩市を訪れた事があります。来年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の話がある昨今とは異なり、山口市の職員であっても楢取素彦の名を知らないといわれ、肩を落とした経験があります。しかし、その後萩城の裏手に毛利神社があり、そここの入り口にあった大きな石の手水鉢に、「群馬県令楢取素彦寄贈」とあるのを見つけ、視察も中身が濃くなった事を記憶しています。

また、市議会議員六名で赤城温泉の総本家に行った時、そのパンフレットに、県令楢取素彦が宿泊したとあったのには驚かされました。